

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	1	施策名	学校教育の充実	重点施策		施策主管課長名	本村 成明	
施策関係課名	子育て支援課、霧島ジオパーク推進課、教育総務課、学校教育課、学校給食課、社会教育課、メディアセンター、国分中央高等学校								
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
<p>■子どもたちが社会を生き抜く力を身に付けるため、確かな学力の定着、思いやりの心と目標を持ち続け努力する心の醸成及び健康づくりや体力の向上を図る。</p> <p>■安心・安全な教育環境を確保するため、年次的な教育施設改修等や防災教育及び交通安全教室などによる安全教育の推進を図るとともに、人材、自然などの地域の教育力を活用して、特色ある教育活動を推進する。</p> <p>■国分中央高等学校をより魅力ある専門高校とするため、新設学科を中心に教育環境を整備し、生徒の進路決定率を高める。</p>									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		幼稚園児、児童、生徒							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	幼稚園児の人数(※市立、私立)	人	見込み値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
			実績値	1,776	1,803	1,816	1,625	1,749	
B	児童(小学生)の人数(※市立)	人	見込み値	8,143	7,527	7,441	7,531	7,553	7,687
			実績値	7,639	7,514	7,382	7,414	7,437	
C	生徒(中・高)の人数(※市立)	人	見込み値	4,616	4,716	4,721	4,589	4,543	4,429
			実績値	4,777	4,661	4,644	4,531	4,439	
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		知・徳・体の調和の取れた成長をする							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立小5)	%	成り行き値	101.0	101.0	101.0	101.0	101.0	101.0
			目標値	101.6	101.8	102.0	102.3	102.6	103.0
			実績値	101.2	100.2	98.6	97.8	96.9	
			達成率	100%	98%	97%	96%	94%	
			結果	○	○	○	○	△	
B	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中1)	%	成り行き値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			目標値	98.3	98.6	99.0	99.3	99.6	100.0
			実績値	98.2	103.2	100.5	99.8	100.7	
			達成率	100%	105%	102%	101%	101%	
			結果	○	◎	○	○	○	
C	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中2)	%	成り行き値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			目標値	98.3	98.6	99.0	99.3	99.6	100.0
			実績値	101.2	99.3	103.9	101.5	98.5	
			達成率	103%	101%	105%	102%	99%	
			結果	○	○	◎	○	○	
D	児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合	%	成り行き値		54.0	54.0	54.0	54.0	54.0
			目標値		56.0	58.0	60.0	62.0	64.0
			実績値	57.2	54.8	54.2	55.7	56.9	
			達成率	#DIV/0!	98%	93%	93%	92%	
			結果	#DIV/0!	○	△	△	△	
E	体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合	%	成り行き値		99.0	98.0	97.0	96.0	95.0
			目標値		100.5	101.0	101.5	102.0	102.0
			実績値	99.4	98.0	100.3	96.9	100.2	
			達成率	#DIV/0!	98%	99%	95%	98%	
			結果	#DIV/0!	○	○	○	○	
F	進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)	%	成り行き値		85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			目標値		86.0	86.0	87.0	87.0	88.0
			実績値	85.0	86.0	89.0	88.0	89.0	
			達成率	#DIV/0!	100%	103%	101%	102%	
			結果	#DIV/0!	○	○	○	○	
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方					
A 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立小5)				<p>「鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合」については、平成25年度の通過率実績値は、小5が100.2、中1が103.2で、県平均を上回っているものの、中2の通過率実績値は、99.3で県平均を下回っている。中2は県平均に届いていないことから、様々な対策を講じることで、小5は103%、中1・2は100%を目標値とする。</p>					
B 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中1)									
C 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中2)									
<p>※A、B、C 小学校5年生、中学校1、2年生を対象として実施している鹿児島学習定着度調査(平成25年度から、「基礎・基本」定着度調査は鹿児島学習定着度調査と名称を変え、調査内容の見直しを行って実施。)</p>									
D 児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合									
<p>※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p>				<p>「体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合」については、学校体育の充実や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団活動及び部活動を活性化することにより、県平均値以上の102%を目標値とする。</p>					
E 体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合									
F 進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)									
※国分中央高校生の「生徒による学校生活に関する自己評価」									
<p>「進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)」については、平成21年度から平成23年度の実績が85%であり、年次的にみると、高1が83%、高2が82%、高3が91%であることから、1・2年生の意識を高める指導を行うことで、3ポイント上昇することを目指す。</p>									

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 「計画→実践→評価→改善」のサイクルにのっとった学力向上プランを推進する必要がある。また、授業力の向上を目指して、教職員研修のあり方を検討する必要がある。さらに、中学校進路指導の充実を図る必要がある。
- 特別支援教育を充実するため、学校全体としての共通理解や、保護者に対する理解を深める必要がある。不登校を未然に防止するため、より一層関係機関との連携を強化するとともに、長期化傾向の不登校の児童生徒への対策を強化する必要がある。
- 「教育の情報化」に対応するため、ICT(情報コミュニケーション技術)教材や校内ネットワークの整備等を進める必要がある。
- 運動不足や体を動かす機会の減少による体力の低下が問題となっていることから、運動不足傾向の児童生徒に対する働きかけを行う必要がある。また、食育については、子どもたちへの食に関する指導の充実とPTAなどと連携して保護者も含めた意識高揚を図る必要がある。
- 特色ある教育活動の指導を行う人材の確保や人材リストの作成、近隣の学校間での情報共有等、学校応援団の活性化を図る必要がある。
- 小学校入学後の適応能力向上のため、幼稚園教育要領に基づき、基本的生活習慣の定着を図る必要がある。
- 国分中央高校は、生徒数の確保と就職・進学率向上に引き続き努めていく必要がある。また、魅力ある専門高校にするため、高度資格取得のための実習環境等の整備や、部活動の推進等を図る必要がある。
- 国分中央高校の新設学科(スポーツ健康科・ビジネス情報科)の教育内容を充実させるため、特色あるカリキュラムの実施や、計画的に必要な施設・設備の整備を進める必要がある。
- 児童生徒等の安心・安全な教育環境を確保するため、年次計画に基づき大規模改造等の校舎リニューアルを進める必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■学校 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な指導により、児童生徒の学力、道徳性、体力の向上を図る。地域や保護者には、学校活動の公開や情報発信に努める。 ■教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・教育振興基本計画の見直し。 ・教職員への指導・助言により、資質の向上を図る。 ・教育環境の整備。 ■県、文部科学省 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の任命及び指導、助言。 ・学習指導要領にのっとった教育課程の完全実施。 ・教育振興基本計画の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習(6090運動)の習慣化を図る。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の確実な実施。 ・あいさつの励行。 ・一家庭一家訓の実施。 ・運動の習慣をつける。 ■地域、コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ・登下校交通安全指導やあいさつ運動等、地域における子どもたちへの声かけの励行。 ・学校・地域の各種行事への参加。 ・学校応援団への積極的な参加。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 児童生徒数の増減について、地域間格差が顕著になる。
- 学校教育に関する地域や保護者の関心が一層高まる。
- 校舎等の老朽化により、修繕、大規模改造等が必要になってくる。
- 学力向上及び週休日における児童生徒の健全育成を目指して、平成28年度は4月から、月1回(第2土曜日)、半日単位の土曜授業を実施する。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 学力・体力向上や心の教育の推進をさらに図るべきとの声がある。
- 少人数指導や特別支援教育など、個のニーズに応じた指導の充実を求める声がある。
- 教職員の資質向上を更に図るべきとの声がある。
- より適切な教育環境の整備が求められている。

5 施策の現状

① 平成28年度施策の取組方針	② 平成28年度施策の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■「学びの基礎」、「立志・夢」、「教師の授業力」の3本柱の具体的な取組について、各学校の実態を把握するとともに、具体的な数値目標を設定させ、より効果的な学力向上対策を支援する。 ■「命の教育の日」の取組など、児童生徒の思いやりの心や規範意識を高める具体的な取組を実施し、心の教育の一層の推進を図る。また、不登校、いじめ問題に関して関係機関との連携を図った取組をさらに推進する。 ■引き続き年次計画に基づき老朽化の著しい学校等を優先して施設整備等を進めていく。また教室不足解消に向けた増築工事を併せて行っていく。 ■学校給食施設整備事業により、引き続き計画に基づき関係課と連携し施設整備を進めていくとともに、老朽化等による施設設備の補修については、適宜対応していくことで、安全安心な給食の提供に努める。 ■部活動等の支援を強化するとともに屋内運動場の建設に着手するほか、高度資格取得のための学習環境等の充実を図り、生徒の進路決定率100%を目指しながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■各小学校において、児童の夢や志を育むために、「きりしまっ子立志10年カレンダー」を一部改善し、より活用が図られるようにした。また、各学校で児童一人一人の夢や目標を掲示するよう指導した。各中学校において市内共通の実力テスト(2・3年)の問題作成・実施し、過去3年間の卒業生の進路先との相関表を各学校に配布し進路指導の充実に努めた。 ■いじめ問題に適切な対応をするために、いじめ問題対策支援室相談員が、電話や来所者への対応、全学校への学校訪問を実施し、いじめ問題等の解決や未然防止に向けての支援を行った。さらに、毎月1回「命の教育の日」を設定し、各学校の実態に応じた取組を行い、自他の命の大切さについて考える活動を行った。 ■年次計画に沿って施設整備を進めた。また、次年度以降の整備順について関係者の合意形成を図ることができた。 ■上小川小学校隣接地に平成29年9月開所予定の国分地区の学校給食センター(最大2,000食規模、対象校:5小学校、1中学校)の建設に着手した。また施設については、特に国分中学校のガス配管修繕や給湯器の更新を行うなど適切に対応した。 ■部活動等の支援を引続き行ったとともに屋内運動場の建設に着手した。また高度資格取得のための学習環境等の充実を図った結果、4年連続で進路決定率100%を達成した。

③ 平成28年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
 目標をほぼ達成 ○ 95%～105%未満
 目標を未達成 △ 95%未満

	平成28年度成果指標			結果
	目標値	実績値	達成率	
A	102.6	96.9	94%	△
B	99.6	100.7	101.0%	○
C	99.6	98.5	99.0%	○
D	62.0	56.9	92.0%	△
E	102.0	100.2	98.0%	○
F	87.0	89.0	102.0%	○

④ 平成28年度施策の成果指標の達成状況及び要因

■「A、B、C 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合」は、小学校5年生は昨年度と比較して0.9ポイント減少し、目標値を5.7ポイント下回ったため目標を達成できなかった。また中学校1年生は、昨年度と比較して0.9ポイント増加し、目標値を1.1ポイント上回ったため目標を達成できた。なお、中学2年生は昨年度と比較して3.0ポイントと大きく減少し、目標値を0.8ポイント下回ったため目標を達成することができなかった。その要因として、小学校については、児童一人ひとりの力を最大限に発揮させるための授業づくりに課題があったと考える。中学校については、3年間に最低1回の研究授業の実施や校内研修への指導主事派遣、ドリカムプラン実力テストの実施を通じた指導方法改善が図られつつあるが、個に応じた指導が徹底していなかったことが考えられる。

■「D 児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合」は、昨年度と同程度であったが目標値を5.1ポイント下回り、目標は達成できなかった。その要因として、学校内における児童会・生徒会の取組やPTA、地域の方々と連携した「あいさつ運動」は浸透しつつあるが、学校外における児童生徒のあいさつの状況に課題があると考えられる。

■「E 体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合」は、昨年度と比較して3.3ポイント増加したが、目標値を1.8ポイント下回り目標は達成できなかった。その要因として、一校一運動の実施や「霧島っ子チャレンジ運動これだけ！」などの励行で一定の効果はみられるものの、全校には浸透していないことが考えられる。

■「F 進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合」は、昨年度と比較して1.0増加し、目標値を2.0ポイント上回ったことから目標を達成した。その要因として、継続的に1年時より進路についての意識を高める取組を学校で行っていることや、各学科とも各種検定や資格取得に積極的に取り組んでいることが考えられる。

⑤ 基本事業の目標達成度

(平成28年度目標と実績との比較)

	○=すべての目標値を達成	△=一部の目標値を達成	×=すべての目標値を未達成
① 学力の向上と個性を育む教育の推進			×
② 豊かな心を育む教育の推進	○		
③ 健やかな体を育む教育の推進			×
④ 特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進	○		
⑤ 教育環境の整備			○
⑥ 幼稚園教育の推進			×
⑦ 魅力ある高等学校教育の推進			○
⑧			

6 平成29年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

■児童生徒の夢や志を根幹に据えたキャリア教育を推進するとともに、アンダーアチーバーゼロを目指す。また、「学びの基礎」、「立志・夢」、「教師の授業力」の3本柱の具体的な取組を推進し、より効果的な学力向上対策を支援する。

■「命の教育の日」の取組など、児童生徒の思いやりの心や規範意識を高める具体的な取組を実施するとともに、不登校児童生徒100人未満を目指す。いじめ問題に関しては、関係機関との連携をより一層図り、情報を共有しながら取組をさらに推進する。

■児童生徒が学習に専念できる環境を整えるために、引き続き財源確保に努めながら校舎、体育館等の改修を進める。

■老朽化等による給食施設設備の補修については、適宜対応していくことで、安心安全な給食の提供に努める。

■市で初めてとなる国分地区南部中学校給食センター調理業務委託において、今後の施設運営に反映させるため、民間の専門的な知識と技術を取り入れ、霧島市学校給食運営審議会に諮りながら施設整備の検討を行う。

■部活動の支援を強化するとともに屋内運動場をはじめ学校施設の充実に努めるほか、高度資格取得のための学習環境等の充実や産官学との連携を確立するなど、生徒の進路決定率100%を維持しながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。

7 平成30年度に向けた施策の課題・方向性

■「学びの基礎」、「立志・夢」、「教師の授業力」の3本柱の具体的な取組について、各学校の実態を把握するとともに、具体的な数値目標を設定させ、より効果的な学力向上対策を支援する。

■「命の教育の日」の取組など、児童生徒の思いやりの心や規範意識を高める具体的な取組を実施し、心の教育の一層の推進を図る。また、不登校、いじめ問題に関して関係機関との連携を図った取組をさらに推進する。

■「体育の授業の充実」と「運動習慣の育成」の2本柱を軸に、各学校の体力向上対策を推進する。

■校舎等の大規模改修を主とした改修を進めるとともに、児童生徒の学習環境を向上させるため、設備の機能を向上させていく。

■各施設の現況把握に努め、緊急性の高い補修について順次対応するとともに、今後の施設整備のあり方について、霧島市学校給食運営審議会に諮りながら、方針を検討して計画策定を行う。

■部活動の支援を強化するとともに学校施設の整備に努めるほか、高度資格取得のための取組や産官学との連携を確立するなど、生徒の進路決定率100%を維持しながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。

基本事業No.	4-1-1	基本事業名	学力の向上と個性を育む教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	------------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■小・中学校の進路指導の充実を図り、児童生徒の夢や志を育む。 ■教職員の指導力向上を図り、児童生徒一人ひとりが分かる授業づくりに取り組む。 	
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・児童 ・生徒 ・教職員
③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身に付ける ・個に応じた指導が受けられる ・指導力が身に付く

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	目標値						
A	確かな学力を身に付けることができた児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値			65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
				目標値			70.0	71.0	72.0	73.0	74.0
				実績値	68.4	73.0	70.7	70.4	69.4		
				達成率	#DIV/0!	104%	100%	98%	95%		
				結果	#DIV/0!	○	○	○	○		
B	個に応じた指導が受けられた児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値			70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
				目標値			78.0	80.0	82.0	84.0	86.0
				実績値	75.2	78.3	79.3	79.3	77.2		
				達成率	#DIV/0!	100%	99%	97%	92%		
				結果	#DIV/0!	○	○	○	△		
C	授業が楽しい、分かりやすいと回答した児童生徒の割合	%	学校評価結果(児童生徒)	成り行き値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
				目標値			80.0	82.0	84.0	86.0	88.0
				実績値	77.5	83.2	79.4	82.0	85.0		
				達成率	#DIV/0!	104%	97%	98%	99%		
				結果	#DIV/0!	○	○	○	○		

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は74%の児童生徒が確かな学力を身に付けることができるようにする。
- B 平成24年度の値を基に、毎年2%増を目指し、平成29年度は86%児童生徒が個に応じた指導が受けられるようにする。
- C 平成24年度の値を基に、毎年2%増を目指し、平成29年度は88%の児童生徒が授業が楽しく分かりやすいと回答できるよう授業改善を行う。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し、児童生徒の思考力・表現力等を育むために教材研究の視点を明確にするとともに、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりがなされるように支援する。 ■児童生徒が「分かった」「できた」と実感できるように、個人差や個性等を考慮した指導法改善や個別指導の在り方について支援する。 ■市メディアセンターと連携し、デジタル教科書や電子黒板を含むICT機器の効果的な活用方法について研修する機会を設け、活用を促進するとともに、活用事例を紹介するなど、資質の向上を図っていく。 ■国分小学校を中心とした研究校のモデルをもとに、市内全小学3・4年生に外国語活動を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し、児童生徒の思考力・表現力等を育む授業づくりができるように、「きりしま授業づくりガイド」を改訂し、各学校で活用を促した。また、相互授業参観や研修会への参加を促した。 ■一人ひとりの児童生徒が「分かった」「できた」と実感できるような、個に応じたきめ細かな学習指導については、指導法改善等の教員の配置により、児童生徒の実態に応じた習熟度別学習を推進できた。 ■電子黒板やICTの効果的な活用方法の研修会を、市メディアセンターと連携して、継続的に実施した。また、文科省指定「ICTを活用した教育推進自治体応援事業」により、「ICTを活用した英語教育推進事業」に取り組み、その充実を図った。 ■国分小学校を中心とした外国語活動の研究の成果をまとめた「霧島市小学校外国語活動ガイドブック&外国語活動年間指導計画(3・4年)」を市内全小中学校に配布し、活用を図った。
--	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- 「A 確かな学力を身に付けることができた児童生徒の割合」は昨年度と比較して1.0ポイント減少し、目標値を3.6ポイント下回ったため目標を達成できなかった。その要因として、教師の指導力向上の環境が整っていないことが考えられる。
- 「B 個に応じた指導が受けられた児童生徒の割合」は昨年度と比較して2.1ポイントの減少し、目標値を6.8ポイント下回ったため目標を達成できなかった。その要因として、個別指導に携わる時間の確保や「よりよい個別指導の在り方」についての理解が十分でなかったことが考えられる。
- 「C 授業が楽しい、分かりやすいと回答した児童生徒の割合」は昨年度と比較して、3.0ポイント増加している。目標値には達していないが、2年連続の増加であり、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりについての教員の理解が深まるとともに、徐々に実践に結びつつあるのではないかと考える。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■「思考力・判断力・表現力」等を育むため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりが実現するよう支援する。また各校における総合的な学力向上対策が計画的に推進されるよう、「学力向上プラン」の進行管理を行う。 ■児童生徒が「分かった」「できた」と実感できるように、各種学力調査への助成や市の分析資料を示す等、各校における個に応じた指導法改善や個別指導の在り方等について支援する。 ■市メディアセンターと連携し、デジタル教科書や電子黒板を含むICT機器の効果的な活用方法について研修する機会を設け、活用事例を紹介するなど、教員の資質向上を図っていく。 ■市内全小学3・4年生において、外国語活動を完全実施し、各校独自の課題に基づいた授業づくりがなされるように支援する。また舞鶴中学校区の4小学校をモデル校区とし、5・6年生の教科型英語を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■身に付けた基礎的・基本的な知識や技能の活用に資する「思考力・判断力・表現力」等を育むため、「主体的・対話的で深い学び」について周知を徹底し、授業改善等の支援を行う。 ■児童生徒が「分かった」「できた」と実感できるように、個人差や個性等を考慮した指導法改善や個別指導の在り方について支援する。 ■市メディアセンターと連携し、デジタル教科書や電子黒板を含むICT機器の効果的な活用方法について研修する機会を設け、活用を促進するとともに、活用事例を紹介するなど、教員の資質向上を図っていく。 ■小学校5・6年生の英語の教科科に向けて、効果的な英語科指導のカリキュラム作成のために、英語教育の研究をさらに推進する。
---	---

基本事業No.	4-1-2	基本事業名	豊かな心を育む教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	--------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針					
①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）					
<ul style="list-style-type: none"> ■道徳の授業や体験活動を活かして、思いやりや感謝の心などを育てる。 ■学校と家庭の連携を推進し、基本的な生活習慣の定着を図る。 					
②対象	・児童 ・生徒	③意図	・規範意識や他人を思いやる心、正義感を持つ ・あいさつをはじめとする基本的な生活習慣が身に付く		

2 基本事業の指標等の推移										
		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)				
①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	規範意識や思いやりの心をもっている児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値		75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
				目標値		80.0	81.0	82.0	83.0	84.0
				実績値	78.4	82.1	77.4	82.1	84.9	
				達成率	#DIV/0!	103%	96%	100%	102%	
				結果	#DIV/0!	○	○	○	○	
B	あいさつができていない児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
				目標値		88.0	89.0	90.0	91.0	92.0
				実績値	86.1	84.5	80.8	82.0	90.6	
				達成率	#DIV/0!	96%	91%	91%	100%	
				結果	#DIV/0!	○	△	△	○	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠	
A 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は84%の児童生徒が規範意識や思いやりの心をもてるようにする。	B 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は92%の児童生徒があいさつができるようにする。

4 平成28年度基本事業の取組方針	5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けての取組を実施する。 ■不登校の未然防止に向けた取組、新たな不登校児童生徒を生まない取組を重点的に行う。 ■市内の全児童生徒に「あいさつ」の意義を理解させ、学校の実態に応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの疑いの段階であっても、学校は事実確認を丁寧に行い早期対応と関係機関との連携をとることへの対応が各学校で推進されつつある。 ■3日連続欠席は長期欠席となる危機意識を持ち早期対応することや、夏休み明けの宿題未提出による欠席を防ぐ対策等を重点的に行った。 ■全学校の学級経営方針に「あいさつ」等が重点とされており、学校が組織的にあいさつの意義を理解させる実践がなされており、学校訪問等の際に各学校の実態に応じた評価や助言がなされている。

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<ul style="list-style-type: none"> ■「A 規範意識や思いやりの心をもっている児童生徒の割合」は昨年度と比較して2.8ポイント増加し、目標値を1.9ポイント上回ったため目標を達成できた。その要因として、全学校において道徳授業や毎月設定されている「命の教育の日」の実践での児童生徒の発言や記述内容、さらに日々の様子から確かな手応えを教師が把握していることが考えられる。 ■「B あいさつができていない児童生徒の割合」は昨年度と比較して8.6ポイント増加し、目標値に近づくことができた。その要因として、各学校の学校経営方針に基づき、児童生徒・保護者・地域住民・教職員が一丸となってあいさつを実践することを「私たちの学校自慢」とするなど、あいさつを学校運営の中核としてとらえていることが考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針	8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けての取組を行い、教育相談の充実を図る。 ■「不登校児童生徒100人未満」を目指し、SSWを中心に不登校の未然防止に向けた取組、新たな不登校児童生徒を生まない取組を重点的に行う。併せて、更なる学校と関係機関との連携を図るために、SSWの増員が必要である。 ■全児童生徒に「あいさつ」の意義を理解させ、目標値を設定するなど学校の実態に応じた支援を行う。併せて、自己肯定感を高める「ほめる運動」の積極的な推進を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめ問題について、依然として学校や教員によって捉え方や対応に違いがあるため、特に早期発見、初期対応ができる各学校の体制づくりを推進する。 ■前年度長期欠席の児童生徒が進級後も不登校状態が継続しているため、SSWを中心に家庭環境も含めた実態把握と関係機関との連携を重点的に行い、全欠状況からの改善を図る。 ■あいさつの意義を児童生徒が理解しているかを把握するのは困難であるが、毎日の児童生徒のあいさつの様子や道徳の授業での発言や記述、体験活動の際の外部講師や地域の方々へのあいさつやお礼などに着目し、きめ細かく実態を教師が把握するように支援していく。

基本事業No.	4-1-3	基本事業名	健やかな体を育む教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課 学校給食課
---------	-------	-------	---------------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 授業中の運動量を確保するなど、体育授業の改善に努めるとともに、一校一運動(体力作り)を推進する。
- 小児生活習慣病等の予防のための保健指導や各種検診等の適正な実施に努め、健康な体を育む。
- 学校給食を中心とする食育の充実に努め、基本的な食生活習慣を定着させるとともに、給食施設の充実に図る。

②対象	・児童 ・生徒	③意図	・基礎体力がつく ・健康な体が育つ ・自分自身の健康管理ができるようになる
-----	------------	-----	---

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	目標値						
A	新体力テスト(8種目)において県平均を超えた平均種目数(小5・中2)	種目	新体力テスト結果	成り行き値		3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
				目標値			4.2	4.4	4.6	4.8	5.0
				実績値	3.5	2.0	4.5	1.0	4.0		
				達成率	#DIV/0!	48%	102%	22%	83%		
				結果	#DIV/0!	△	○	△	△		
B	健康診断で要注意・要治療となった児童生徒の割合	%	健康診断結果	成り行き値		4.0	4.5	5.0	3.4	3.4	3.4
				目標値			2.8	2.8	1.7	1.7	1.7
				実績値	3.0	4.0	3.0	2.1	1.8		
				達成率	#DIV/0!	57%	93%	76%	94%		
				結果	#DIV/0!	△	△	△	△		

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 現在、半分の種目で県平均を上回っているため、平成29年度には5種目で平均を上回ることとした。
 B 過去3年間の心臓・腎臓・小児生活習慣病予防の3種の検診で、最低値であった平成26年度実績の1.7%を維持することを目標とした。

4 平成28年度基本事業の取組方針 5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況

■児童生徒の体力向上を図るため、心と身体の成長に合った運動を推奨し、従来の各学校の一校一運動を継続するとともに体育学習の充実に図る。

■児童生徒の健康に対する意識を高めるため、担任や養護教諭と保護者が連携を取りながら、健康教育の充実に図っていく。

■児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるために、引き続き栄養教諭を中心とした食に関する指導の充実に図るとともに、保護者の食に関する意識向上に努めていくことが重要である。

■計画に基づいて老朽化した給食施設の改善を引き続き行っていく。

■各学校とも一校一運動を継続しながら、個々の能力を高めるために体育の充実に図られた。

■担任や養護教諭と保護者が、児童生徒に寄り添いながら、健康教育の充実に図られた。

■家庭生活も含めたところの食習慣を身に付けさせるために、保護者と栄養教諭が担任を通じ情報を共有することで食に関する意識向上に努め、その充実に図られた。

■国分地区南部学校給食センターの着工が具現化し、計画に基づいて給食施設の改善が図られた。

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

■「A 新体力テスト(8種目)において県平均を超えた平均種目数(小5・中2)」は、昨年度と比較して大きく増加したものの、投能力や柔軟性の種目に課題があり目標は達成できなかった。その要因としては、児童生徒の良い生活習慣と運動習慣が十分に定着していないこと等が考えられる。

■「B 健康診断で要注意・要治療となった児童生徒の割合」は、昨年度と比較して0.3ポイント減少し目標値に近づくことができた。その要因として、学校が食生活や生活習慣の改善に関して保護者と一体となって取り組んだこと等が考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性

■児童生徒の心と身体の成長に即した運動を推奨することはもとより、食生活やゲーム、塾といった学校外での生活習慣の改善、登下校時の歩く習慣づくりなどについて啓発し、運動実施時間を確保する必要がある。

■学校保健委員会や各種研修会等において健康に対する意識を高めるため、学校と保護者が連携を取りながら、児童生徒に寄り添った健康教育の充実に図っていく。

■児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるために、引き続き栄養教諭研修会等を実施し、食に関する指導の充実に図るとともに、保護者の食に関する意識を向上させていく。

■計画に基づいて老朽化した給食施設の改善を引き続き行っていく。

■近年、全国的に若年層の活躍が目覚しく、本市においても県のみならず全国を見据えた、体力育成が望まれる。学童期は遊びの中から基礎体力を付け、思春期においては、技術力向上を目的に体力育成に努める必要がある。今後も体育(保健体育)の授業の充実と、日常的に運動に親しむ態度を身に付けさせる。

■栄養教諭が本来の業務に注力できるようにするため、調理現場の体制や環境を整えていく。

■ウェット方式の給食施設の改善を中心に、霧島市学校給食運営審議会に諮りながら施設整備計画を策定していく。

基本事業No.	4-1-4	基本事業名	特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	-----------------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
地域の特色や人材を活かして、活気ある学校づくりを行うとともに、保護者や地域住民が学校を訪れる機会を積極的に設ける。	
②対象	学校
③意図	地域の特色や教育力を活用して活性化する

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	地域の特色や人材を活かした教育活動の件数	件	実態調査	成り行き値		420	420	420	420	420
				目標値		480	485	490	495	500
				実績値	474	654	700	680	670	
				達成率	#DIV/0!	136%	144%	139%	135%	
				結果	#DIV/0!	◎	◎	◎	◎	
B	「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に学校を訪れた人数	人	実態調査	成り行き値		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
				目標値		21,050	21,100	21,150	21,200	21,250
				実績値	21,001	21,030	21,681	20,072	24,241	
				達成率	#DIV/0!	100%	103%	95%	114%	
				結果	#DIV/0!	○	○	○	◎	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成24年度の値を基に、毎年5件増を目指し、平成29年度は500件の地域の特色や人材を活かした教育活動が行われるようにする。	B 平成24年度の値を基に、毎年50人増を目指し、平成29年度は21,250人の方々が学校を訪れることができるようにする。
--	---

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■これまでの地域の人材を活用した取組だけでなく、土曜授業においても地域の多様な人材活用を推進する。 ■世界ジオパーク認定を見据えて、教職員、児童生徒が霧島山に関する学習に取り組むことで、霧島ジオパークの理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■各学校とも土曜授業等において地域の人材を活用し、様々な活動を行うことができた。 ■ジオパークコーナーを各学校に設置し、霧島ジオパークの理解を深めるとともに、霧島ジオパーク推進課との連携を取りながら各種事業を推進できた。 ■霧島ジオパーク出前講座9回596名 ■ジオガイド派遣22回 ■九州ジオパーク子ども交流事業(環霧島地域から12名 於 秋吉台GP) ■夏休み子ども火山スクール(環霧島地域 28名 於 えびの高原)
---	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

<p>■「A 地域の特色や人材を活かした教育活動の件数」、「B 「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に学校を訪れた人数」とともに実績値が増加し、目標を達成した。その要因としては、地域の優れた人材の積極的な活用と郷土に生きる人たちとの交流が積極的に行われたためであると考えられる。</p>

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■平日は、仕事があるため保護者が学校行事等に参加しにくいという課題があるため、学校行事等を土曜授業において実施し、保護者や地域住民が学校を訪れる機会を積極的に設ける。 ■教職員、児童生徒が霧島山に関する学習に取り組むことで、霧島ジオパークの理解を深める。そのために参加ジオガイドの数を増加させ、よりきめ細やかな指導や支援ができる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■これまでの地域の人材を活用した取組だけでなく、土曜授業においても積極的に地域の多様な人材活用を推進する。 ■教職員、児童生徒が霧島山に関する学習に取り組むことで、霧島ジオパークや地球科学への理解を深める。
--	--

基本事業No.	4-1-5	基本事業名	教育環境の整備	基本事業 主担当課	教育総務課 学校教育課
---------	-------	-------	---------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）		
<ul style="list-style-type: none"> ■年次計画に基づき、大規模改造等の校舎整備を行い、児童生徒の安心・安全な教育環境を確保する。 ■児童生徒を事件、事故等から守るため、安全教育の更なる充実を図るとともに、地域や関係機関等との連携強化に努める。 ■適切な公的支援を行い、児童生徒が安心して教育を受けられるように努める。 		
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・児童 ・生徒 	③意図
		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な教育環境で教育を受けられる ・安心して教育を受けられる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分							
				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)		
A	非構造部材(天井等)の耐震基準を満たした学校施設の割合	%	体育館等の非構造部材の耐震化率	成り行き値	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0
				目標値	83.0	92.0	94.0	96.0	98.0	100.0	
				実績値	83.0	83.0	83.0	100.0	100.0		
				達成率	100%	90%	88%	104%	102%		
				結果	○	△	△	○	○		
B	児童生徒にとって安心して教育を受けられる環境が整っていると考える学校の割合	%	学校評価結果	成り行き値	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	
				目標値		69.0	69.5	70.0	70.5	71.0	
				実績値	68.1	66.0	71.3	77.6	76.9		
				達成率	#DIV/0!	96%	103%	111%	109%		
				結果	#DIV/0!	○	○	◎	◎		

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 施設整備計画に基づき年次的に改修していくことで、平成29年度までには非構造部材の3分の1の改修を終えることとした。
 B 平成24年度の値を基に、毎年0.5%増を目指し、平成29年度は71%の学校が児童生徒が安心して教育を受けられる環境が整っている、となるようにする。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度で、非構造部材の天井耐震化については全て終了する予定としている。 ■教育を受ける機会を保障するため、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対してさらに周知を図り、必要な援助を行うことにより保護者の負担軽減に努める。 ■通学路の安全対策については、引き続き合同点検を実施し、また、霧島市通学路安全推進会議を開催するなど関係各機関と連携を図り、事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■非構造部材のうち体育館の照明器具については、電球交換の際に新たに補強チェーンを取り付けるなど、安心安全な施設整備に努めた。 ■教育を受ける機会を保障するために、通学距離小学生4km、中学生6km以上の保護者に対して遠距離通学費補助金を支給したり、経済的理由によって就学困難な児童生徒に対して必要な援助を行った。また、周知の方法を改善したことにより、申請者の増加につながった。 ■通学路の安全対策については、スクールゾーン選定委員会を開催する学校が増えてくるなど、関係各機関と連携した地域ぐるみの事故防止体制が整ってきた。
--	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

■「A 非構造部材(天井等)の耐震基準を満たした学校施設の割合」は、国庫補助金を活用し、平成27年度に耐震化工事が完了したことから、達成率100%となっている。
 ■「B 児童生徒にとって安心して教育を受けられる環境が整っていると考える学校の割合」は昨年度と比較して0.7ポイント減少したが、目標値を6.4ポイント上回り目標を達成した。その要因として、就学援助については、学校長を通じて全保護者に具体的な就学援助等の周知がなされたこと、通学路の安全対策については、教職員や保護者が実際に現地を確認するなど路線変更も含め最善の策を講じて対応していることが考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■教室数の不足が懸念される学校もあり、校舎増築と老朽化に伴う大規模改造事業とのバランスをとりながら、計画的な施設整備を進める。 ■経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して、教育を受ける機会を保障するため、就学援助制度の周知を図るとともに、学校と連携して、潜在的な対象者に対しては、個別に制度を案内し、その利用を勧めるなどして保護者の負担軽減につながるよう努める。 ■通学路の安全対策については、災害発生時の対応も含め、地域と学校及び家庭が、密接に連携を取り、また警察・行政等の児童生徒に関わる、あらゆる団体が協力することで児童生徒の安全を確保し、事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■教室数の不足が懸念される学校もあり、校舎増築と老朽化に伴う大規模改造事業とのバランスをとりながら、計画的な施設整備を進める。また、長寿命化計画策定に向けて取り組んでいく。 ■経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して、教育を受ける機会を保障するため、就学援助制度の周知を図るとともに、制度の充実が図られるように努める。 ■児童生徒の安全を確保するため、日々変化する交通事情を勘案し、交通情報をスクールガードリーダーや防犯ボランティア等と共有し、地域と学校及び家庭が一体となって通学路の安全確保に努める。
--	---

基本事業No.	4-1-6	基本事業名	幼稚園教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）
 様々な体験を通して人とかかわる力や、基本的なしつけを身に付けさせるとともに、小学校へのスムーズな接続を図る。

②対 象	園児（3～5歳）	③意 図	基本的な生活習慣が身に付く
------	----------	------	---------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単 位	②成果指標の測定方法	③数値 区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合	%	学校(園)評価	成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
				目標値	88.0	88.2	88.3	88.4	88.5	88.6
				実績値	86.7	85.8	82.0	85.4	83.5	
				達成率	99%	97%	93%	97%	94%	
				結果	○	○	△	○	△	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成23年度実績の88.0%を基に、年次的に基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合を高めることとした。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<p>■幼稚園・小学校の接続期の保育や指導の在り方について、研修を通して理解を深めるとともに、幼保小連絡会を実施する。</p>	<p>■各幼稚園において、基本的な生活習慣の定着に向けた保育の充実に取り組んだ。 ■幼稚園から小学校への円滑な接続ができるように、幼稚園教諭等を対象とした研修会を実施した。</p>
---	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

■「A 基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合」は昨年度に比べて1.9ポイント減少し、目標値を5.0ポイント下回ったため目標を達成することが出来なかった。その要因として、幼稚園教育で目指す園児の姿を家庭と共有し、園と家庭において、基本的なしつけを行うなどの幼稚園教育と家庭教育との連携が十分ではなかったこと等が考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<p>■幼稚園・小学校の接続期の保育や基本的な生活習慣を身に付けさせるための指導法の在り方について、研修を通して理解を深める。 ■幼稚園での幼小連絡会では小学校教諭による保育参観を行うことで、配慮を必要とする幼児等の把握、情報の共有を図る。 ■小学校での幼小連絡会では幼児の体験入学等を実施し、幼児が就学後の環境に慣れ親しむような機会を提供する。</p>	<p>■幼稚園・小学校の接続期の保育や指導の在り方について、研修を深めるとともに、幼保小連絡会を実施したり、保護者向けの参観日や説明会を開催する。</p>
---	---

基本事業No.	4-1-7	基本事業名	魅力ある高等学校教育の推進	基本事業 主担当課	国分中央高校
---------	-------	-------	---------------	--------------	--------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■進学・就職指導の充実を図り、専門性豊かな人材づくりに努め、生徒の進路決定率を高める。 ■体育館など、教育環境の改善・充実を進め、高等学校の活性化を図る。 	
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・市立高校の生徒 ・学校の施設、設備
③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性豊かな人材に育つ ・教育環境が整う

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	高度資格取得のべ人数	人	市立高校の管理データ	成り行き値	750	750	750	750	750	750
				目標値		770	780	790	800	810
				実績値	752	875	841	822	825	
				達成率	#DIV/0!	114%	108%	104%	103%	
				結果	#DIV/0!	◎	◎	○	○	
B	就職・進学率	%	市立高校の管理データ	成り行き値	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
				目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績値	97.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
				達成率	#DIV/0!	100%	100%	100%	100%	
				結果	#DIV/0!	○	○	○	○	
C	「学校が楽しい」と回答した生徒の割合	%	市立高校の管理データ	成り行き値	88.0	87.0	86.0	85.0	84.0	83.0
				目標値		89.0	90.0	91.0	92.0	93.0
				実績値	89.0	93.0	94.0	92.0	93.0	
				達成率	#DIV/0!	104%	104%	101%	101%	
				結果	#DIV/0!	○	○	○	○	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成24年度から、生徒数が1クラス減になるため、過去3年間の最低値である平成24年度の761人を基に、年次的に10人ずつ増やすこととした。
B 将来に対する目的意識を持たないまま卒業する生徒を皆無とするため。
C 平成24年度実績をベースとして、平成23年度の92%を最終的には上回ることを目標とした。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■教育環境の改善・充実を図るため、屋内運動場建設を進める。 ■進学・就職率100%を維持するために、個々の生徒に合わせたきめ細やかな進学・就職指導に努める。 ■さらなる学校の活性化を図るため、外部指導者等をはじめとする部活動等の充実・強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■教育環境の改善・充実を図るため屋内運動場の建設に10月より着工した。 ■平成28年度も就職・進学の決定率100%を達成し、4年連続で100%とした。 ■陸上・柔道・ダンス部がインターハイ等の全国大会に出場した。また、他の部も地区、県、九州大会に出場し、多くの部が活躍することにより学校の活性化が図られた。
--	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

<ul style="list-style-type: none"> ■「A 高度資格取得のべ人数」は昨年度と比較して3人増加し、目標値を25人上回ったため目標を達成できた。その要因として、資格取得に取り組むように、各学科の学校評価における重点目標に掲げているなど、学校全体で取り組んでいることが考えられる。 ■「B 就職・進学率」は4年連続100パーセントを達成しており、その要因としては、各学科の特性を活かした進路指導及び校内外模試や進路講話・ガイダンスなどを通してのキャリア教育を推進していることが考えられる。 ■「C 「学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合」は昨年度に比べて1.0ポイント増加し、目標値を1.0ポイント上回ったため目標を達成できた。その要因として、部活動の活躍や各学科の特色ある取り組みの成果と考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■教育環境の改善・充実を図るため、屋内運動場建設を年度内に完成させる。 ■進学・就職率100%を維持するために、個々の生徒に合わせたきめ細やかな進学・就職指導に努める。 ■部活動を活性化するため、加入率の向上につながる施策の研究やより効果的な指導法の研究や部員一人ひとりの意識向上に努める。 ■小・中学校・学習塾などとの連携や、第一工業大学との連携協定などにより、募集定員の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■進学・就職率100%を維持するために、個々の生徒に合わせたきめ細やかな進学・就職指導に努める。 ■部活動を活性化するため、加入率の向上につながる工夫やより効果的な指導法の研究を行うとともに部員一人ひとりの意識向上に努める。 ■小・中学校・学習塾などとの連携や、第一工業大学との連携協定などにより、募集定員の継続的な確保を目指す。
---	---